令和7年度自己評価結果公表シート

庄本幼稚園

Ⅰ、本園の教育目標

緑いっぱいの環境の中で
おもいやりのある子ども
自主性のある子ども
明るく浄く正しく素直な心の子どもを目指して
・基本的な生活習慣を身につける。
・自然に対する関心を抱かせる。
・丁寧な保育をし、自立心を育てる。
・思いやりのある子どもらしい子どもに育てる。
・行事や活動から生まれる達成感や感動を体験する。

Ⅱ、本年度、重点的に取り組む目標と計画(PLAN)

1、主たる行事における非認知能力の向上
2、園庭遊びにおける非認知能力の向上
3、認知能力と非認知能力のバランスよい向上。
4、健康と安全への配慮
5、教師としての資質の向上

Ⅲ、評価項目の達成及び取組状況(DO)

評　価　項　目	取り組み状況
1、主たる行事における非認知能力の向上 運動会、お遊戯会、作品展、縄跳び大会	ア、1学期と比べて最も成長した2学期、行事を通じて楽しさを感じることができた。それぞれのペースで練習し、節目節目で達成感や喜びをクラスの中で分かち合った。個人差はあるが、誉めることで興味ややる気が高まるよう、自信を持てるよう、喜びが感じられるよう声掛けを行った。
ア、意欲、やる気、チャレンジ力	イ、協調性と思いやり、個々差はあるが年長になるにつれて思いやりや助け合いが高いと思う。年中に教えてあげる姿が見られた。集団遊びやルールを守る大切さ、言葉で伝えることの大切さ、出来ない時には友達に助けてもらいながら、困っている友達には手を貸したり周りを見ながら出来る姿も見られた。
イ、協調性、思いやり、感謝	
ウ、忍耐力、集中力	ウ、生活行事において、興味から入れるよう導入した。年少ではみんなと一緒にすることで自然と身に着けてきた。一生懸命に取り組み、努力することの大切さ、頑張ろうとする気持ちになるよう心がけた。話を聞く、待つことができたことをほめる。年少では忍耐力や集中力にどう繋げるか。
ヱ、思考力、判断力	エ、見守ることを大切に、子どものカを発揮できるよう、待つ時間を取るよう自分で考え行動できるよう、敢えて見守り、何をすべきかどのように行動すれば、自分で考えるように、環境整備も取り入れ、小さな取り組みも自信につなげていく。指示がないと動かない姿も多く見た。いろんなところに貼り紙をして思考力への導きを促した。
オ、自信力、やりぬく力、	オ、個人差が大きく、練習のくりかえしで続けていくこと、繰り返すことで達成感が得られ自身へとつなげていく、保育者と一緒に取り組むことでできるようになった喜びが自信へとつながり、周りの人に役立つこと、感謝の気持ちを持てるように。自分で考え行動できるよう敢えて見守りを。
2,園庭遊びにおける非認知能力の向上 ア、意欲、チャレンジ力、	ア、年少は、まずは安全に、年中は、鉄棒、雲梯、など自由遊びで自主的に練習、ごっこ遊びで保育者も参加、できた喜びを伝える姿が多く見られた。各遊具に挑戦し、できるようになった友達を見てて、喜びを伝える。遊具に苦手な子でもその子なりの達成感(喜び)を感じさせるよう周りの子の頑張りや工夫している様子に導くことで、やってみようとする気持ちを芽生えさせる。
イ、協調性、思いやり、感謝、忍耐力	イ、異年齢間の交流を促す。交流が自然にできるように。譲り合って自分たちで解決しながら楽しく遊ぶ姿が見られた。順番を守る譲り合うことの大切さを話す。思いやりの気持ちが芽生えてきている。
ウ、工夫、思考力、自立心、	ウ、遊び道具の貸し借りや譲り合いで思いやり、感謝の気持ちが芽生えてくる。自分たちで遊び道具の組み合わせを工夫したり考えることで忍耐力、順番待ちの気持ち。ごっこ遊びで遊びの展開(発展)、道具の片付け等や感謝の気持ちが芽生える。
エ、季節感、体感、自然への関心	エ、行事や歌を通して季節感、天候、季節の変化に気付かせるよう指導する。日々の保育の中で落ち葉や虫にも関心を持つように、絵本、図鑑を通して体感も含め指導した。

3，認知能力と非認知能力のバランスよい向上。	3，日常的な園児とのコミュニケーションにより認知能力向上に興味を持たせ、必然的に非認知能力も伴ってくる。楽器演奏、歌唱、文字、漢字、計算等、認知能力における集中力、努力の成果、忍耐力、等のバランスよい誘導、個々それぞれの頑張りを認め、能力に応じて取り込みや言葉かけをすることで苦手なことにも挑戦する姿が見られた。と同時に非認知能力の向上もバランスよくできた。
4，健康と安全への配慮	
ア、登園時～保育時における健康対策	ア、視診、表情、日常との比較、保護者との引継ぎにより園児の体調を把握。声掛けを必ず、異変があれば直ぐに保護者に連絡。視診はできた。手洗いの徹底、部屋の換気も徹底。
イ,行事対策	イ、今年度は行事の参加制限は少なくなり変更や制限は適切であったと思う。
ウ、遊具や点検、使用時の監視	ウ、施設、遊具の週1回の点検、遊び方の指導、監視はできた。
エ、通園バス等での置き去り防止対策	エ、バス2台の警報装置の適切な運用。運転手、添乗員、教員の連携はとれた。忘れ物の確認の際置き去りを確認
オ、避難訓練	オ、地震、火災、不審者対策、実施。津波も加えた訓練が必要。 まだまだ改善が必要。
5，教師としての資質の向上	ア、感情的にならないよう、威圧感を与えるような大声や口調はできるだけ避け、冷静に丁寧に関われた。園児や保護者の話をきちんと聞き、対応するよう意識している。
ア、園児や保護者との対応は公平か	
イ、身だしなみ、挨拶、感謝の気持ち	イ、一社会人として周りの人への感謝の気持ち心構えを意識している。
ウ、清掃や整理整頓	ウ、朝夕のチェック、クラス内、園庭も含めて時間的に余裕のないときを除き概ねできた。
エ、プライバシーに関する情報の保護、	エ、情報は持ち帰らない、保管や取り扱いに気を付けている。
オ情報の共有、職員間の協力、連携	オ、クラスを超えて対応、小規模園の特色を生かして情報の共有。
カ、幼稚園教諭としての専門知識や技能の向上	カ、研修に行く機会が無かった。オンライン研修に積極的に参加したい。
、	

Ⅳ、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果(CHECK)

非認知能力は日常の園庭での自由遊びにおいて、子どもの日常の自然な姿、子供らしい姿において大きく向上、発揮される。それをさらに発展させるために、保育者も参加し、喜びや達成感を伝えて自信を持たせることを多少なりともできたと思う。行事や行動における非認知能力の向上には、楽しさを感じさせることが必要。節目節目で達成感や喜びを感じさせるために声掛けを行った。褒めることでやる気、自信につながる。協調性や思いやりは個々差はあるが年中、年長になるにつれて、異年齢間の交流において、順番待ちや譲り合いで思いやりの気持ちが芽生えていく。行事や活動を進める中でその過程が大事で、無理なく計画的に行われ、園児たちが無意識に集中力や忍耐力、協調性等が身についていくことができたと思う。季節感、体感や自然への関心は、園庭遊びや、行事や季節の歌を通して気づかせるよう指導した。

Ⅴ,今後、取り組むべき課題(ACTION)

目標の一つである行事や活動における非認知能力の向上については全職員が十分に理解し実行できるよう意識の高揚に努めなければならない。また、常日頃から園児とのコミュニケーションをはかり、楽器演奏、歌唱、文字、計算などの認知能力において、楽しさや達成の喜びを取り入れ、適切な誘導や指導の下、集中力、忍耐力が自然な形で身についていく必要がある。園児の健康と安全については遊具、施設の点検や通園バスにおける置き去り防止に今後も緊張感を持ち続け行い、コロナや他の感染症についても引き続き気の緩むことなく感染防止に努めなければならない。

Ⅵ,学校関係者の評価

異年齢間交流が素敵だと思う。小規模園ならではの良さと思う。他のクラスでも気をかけてくれており安心、行事や活動において、子供たちが大幅に成長し、自信をもってやっている姿は楽しみ。行事について、保護者の意見を取り入れながら実施してもらって感謝。家庭との連絡も適切に行われていた。持ち帰りの作品は季節が表現できて感動、先生間の連携不足が感じられる。来年度の認定こども園化で職員が増えて、一層の連携が必要。保護者会廃止の議論もあるが、働くお母さんでも「子供のために」と活動できるような保護者会が存続できるよう園と保護者が良好な関係を持ち続けたい。防犯対策や避難訓練について更なる改善をお願いしたい。衛生面、安全面においても、今後とも気を緩むことなく緊張感をもって対応を,また、更なる家庭との連絡もお願いしたい。

Ⅶ、財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。